



あ
油
郊
美

天空の「嶺宮」へ



(写真提供 丸山祥司氏)

7月27日～29日、平成28年式年遷宮祭奉祝行事「嶺宮登拝」が行われました。氏子崇敬者ご案内をしたところ、全国より多くの方に参加頂き神社職員を含め47名の大所帯で出発致しました。

1日目は涸沢ヒュッテまでの行程で、雨模様の中、元気に周りの景色や、植物を観察しながら登る人もいれば、必死に登る人もいました。涸沢ヒュッテに着いた時には皆が1日目の目的地に着いた安堵の表情でした。涸沢ヒュッテ会長小林銀一郎曰く天候が良くない中、奥穂高岳山頂嶺宮を目指し雨が強まる中、涸沢ヒュッテを慎重に登つていきました。穂高岳山荘でお昼休憩の後、最大の難所、鎖とはしごが連続する岩場を一步一歩安全を確かめながら嶺宮に向けて進んでい

7月27日～29日、平成28年式年遷宮祭奉祝行事「嶺宮登拝」が行われました。氏子崇敬者ご案内をしたところ、全国より多くの方に参加頂き神社職員を含め47名の大所帯で出発致しました。

1日目は涸沢ヒュッテまでの行程で、雨模様の中、元気に周りの景色や、植物を観察しながら登る人もいれば、必死に登る人もいました。涸沢ヒュッテに着いた時には皆が1日目の目的地に着いた安堵の表情でした。涸沢ヒュッテ会長小林銀一郎曰く天候が良くない中、奥穂高岳山頂嶺宮を目指し雨が強まる中、涸沢ヒュッテを慎重に登つていきました。穂高岳山荘でお昼休憩の後、最大の難所、鎖とはしごが連続する岩場を一步一歩安全を確かめながら嶺宮に向けて進んでい

きました。そして全員が無事山頂に到着。神様が登拝者たちを歓迎するかの如く、今まで雲で覆われていた空に光が差し青空になりました。早速、嶺宮を掃除し苦労して本宮より持つてきた御神酒やワサビ、スイカ等をお供えし、平成28年式年遷宮祭が滞りなく斎行されましたことをご報告申し上げる神事が行われました。神事終了後には参加者全員笑顔で記念撮影をしました。

その後2日目の宿泊地穂高岳山荘へ下山しました。穂高岳山荘に到着し、お供えをしたスイカをいただき緊張から解放された登拝者は笑顔が戻りました。

3日目、達成感と感動を胸に本宮へ向けて帰路につきました。

今回の登拝は大所帯でしたので、予定より時間が掛かりましたが、全員が無事に参拝することができました。「雨の中苦労して登り達成感に満ち溢れる」「登頂したら大きな感動が待っていた」「嶺宮に参拝でき無量」など皆が参加して良かつたと言つていました。

発行所
穗高神社社務所
創刊 昭和52年2月
〒399-8303
長野県安曇野市穂高6079
電話 0263-82-2003
FAX 0263-82-8770

氏神さま、氏子について

氏神さまとは自らの住む土地をお守りくださる神様のことです、その土地で生活や仕事をする人達を氏子と言います。いつの時代にもこの土地に住む人々の生活や未来にわたり安寧を願つ心が神の心と合い守ってくれています。日頃から氏神さまとのご縁を大切にいたしましょう。安曇野市穂高、等々力地区・等々力町区・穂高町区・穂高区の氏神さまは穂高神社となります。

穂高神社歳時記

●八坂社(やさかしゃ)例祭

7月14日・15日神社に向かつて右側に林立している中の八坂社例祭(祇園祭・天王祭ともいいう)が等々力町区、穂高町区の正副区長、氏子総代が参列し、滞りなく斎行されました。この祭りは疫病よけの祭りです。

●鹿島社(かしましゃ)例祭

7月25日・26日神社に向かつて右側に林立している中の鹿島社例祭が等々力町区、等々力町区の正副区長、氏子総代が参列し斎行されました。この祭りは天地の災難を除ける祭りです。

●穂高靈社みたままつり

8月15日午後8時、みたままつりが斎行され祭典終了後、北神苑にて第32回遠州三ヶ日の花火師により手筒花火が奉納されました。大迫力の爆発音と想像を超える大きな火花の柱を見に大勢の参拝者で賑わいました。

●子供祭り

9月9日・10日子供祭りが斎行



●道祖神祭り



8月26日・27日「第33回 安曇野道祖神まつり」が開かれました。

26日は参加者60名が集まり、穂高駅前の道祖神前で神事を行い、穂高神社参集殿で講演会が開かれました。27日は道祖神めぐりで45名の参加者が安曇野市明科・東筑摩郡生坂村の道祖神を見学致しました。両日とも県内外より参加者が集まり、道祖神のことなどを奥深く知る充実した2日間となりました。

●子供相撲

8月22日に神徒家(神式)で葬儀を行つている家の故人を偲び、祖靈の慰靈祭が穂高神社参集殿にて231名の参列のもと厳粛に斎行し、御靈さまをお慰め申し上げました。



されました。子供祭りとは神社に向かつて右側に林立している中の疫神社(穂高区)、八幡社(等々力町区)、神明社(穂高町区)の例祭を合同で行つており各区の子供船が曳き廻されます。このお祭りは9月10日前の土日に行われます。



勝つて喜んでいる子、負けて悔し涙を流している子、それぞれ真剣勝負で素晴らしい取組でした。

●例祭・御船祭り

9月26日・27日長野県無形民俗文化財指定の御船祭が斎行されました。

26日は午後8時より宵祭が行され、神樂「穂高の舞」が奉納されました。翌27日は午後3時、本祭が始まり穂高人形を飾った大小5艘の御船が引き入れられ大勢の観客から歓声があがりました。

※等々力町区の子供船「井伊直政の初陣の場面」染めて散るの場面

※穂高町区の子供船「伊豆直政の初陣の場面」

※穂高区の子供船「沢庵漬けの起源の場面」

※南町区の大人船「大阪決戦 天王寺口の攻防」

小笠原秀政・忠信親子の奮戦の場面

※穂高区の大人船「金毛九尾の狐の場面」

※穂高の舞「神の代のあとを尋ねて来てみれば、今もします穂高見の神」と歌われるこの舞は、

大正12年当時晴国神社宮司賀茂百樹氏が上高

地奥宮参拝の折に作詞され、後に作曲は当時宮内庁式部職業の多忠朝氏、舞は穂高神社元参与西川久寿男氏により作られたもの。

●奥宮例祭

10月8日、上高地明神池畔に鎮座している奥宮例祭が斎行されました。

このお祭りは紅葉祭りとも言われ、上高地は色鮮やかに染まり始めました。3連休の中日であり、まれにみる晴天に恵まれ例年以上の参拝者が訪れ、龍頭鷦船の御船2艘が明神池を一周する御船神事に感激されていました。



●日本アルプス遭難者慰靈祭
10月8日奥宮例祭後に日本アルプスで遭難された方々の御靈をお慰める慰靈祭が、全国各地より訪れた遺族が参列し斎行されました。遺族の方々は、地元の名物や好みだった物をお供えし、花を手向けそれぞれ御靈の御安鎮をお祈りし、お慰めされていました。

●宗敬会通信

●穂高宗敬会研修旅行

10月16日から17日に毎年行われる宗敬会研修旅行、今年は「出羽三山2社めぐりと由良温泉の旅」で山形県に23名で行ってまいりました。1日目はまず新潟県村上市の岩船鮮魚センターにて昼食をとり、湯殿山神社に向かいました。

仙人沢駐車場に到着し湯殿山参拝専用バスに乗り換、出羽三山の奥宮とされる湯殿山神社に着きました。少し歩くと神社入り口があり、そこからは靴を脱いで裸足となり、お祓いをうけ進んでいきました。

2日目は砂浜があり、海が綺麗な湯泉「ホテルハ乙女」。ホテルの目の前は砂浜があり、海が綺麗に見える眺めの良い宿で、ちょうど部屋に着いた頃に夕日が見え、日本の夕陽百選の地だけあってとても優美で感動しました。

2日目、羽黒山を目指しホテルを出発しました。到着すると山伏さんがお出迎えをしていただき、法螺貝を吹き鳴らしながら山頂各所を案内してくれました。その後、今年の7月に完成した仏像約250体安置する千沸堂を神主さんが案内してくださいました。神社ではありますか仏教にも深いかわりがある珍しい場所であることが分かりました。正式参拝で玉串拝され、先ほどいた場所との境はスクリーンが上から降りてきて遮断され暗くなり案内された通り頭を下げていると鈴が背中をトントンと軽くたたいて通過していき、悪いものが落ちたような清々かな気

この日は曇り空で気温も低く寒くて裸足には突き刺さる冷たさでした。バスに揺られて眠気があったのがすっかり覚めてすつきりとした気持ちで参拝しました。

湯殿山神社境内の中のことを

「語るなけれ」「聞くなけれ」と

いつ戒めがあるそうで、裸足になつてから先は写真を撮ることも、

他の人に話すことも禁止されています。ですのでこれ以上境内のこ

とは語れません。気になる方は是非ご参拝ください。宿泊地は由良

温泉「ホテルハ乙女」。ホテルの

目の前は砂浜があり、海が綺麗に

見える眺めの良い宿で、ちょうど

部屋に着いた頃に夕日が見え、日

本の夕陽百選の地だけあってとて

も優美で感動しました。

個人会員	法人会員
双葉	大雪溪酒造株式会社 薄井敦仁
川瀬	池辺 博行
立花	川口 真男
當麻	岡田 清彦
岡田	立石 隆宣
仙波	富美 定彦
あけみ	東國石
定彦	柳内 平
外	林立花
柳内	川澤 免
外	平林
柳内	花
外	立
柳内	石
外	川澤
柳内	功
外	康節子
耐湖	美一司
耐湖	雄

持ちになりました。
この旅で、プライベートでは中々来れないような場所に行け、とても貴重な体験ができ有意な研修旅行でした。(竹内みかり)

崇敬会新入会員

(平成29年5月1日～平成29年10月31日まで)

崇敬会入会のご案内	
会員種別入会金	(年会費)
一、個人会員	3,000円
一、法人会員	3,000円
一、名譽会員	0,000円
◎特別会員	0,000円
穂高神社氏子(安曇野市穂高町区・穂高町区・穂高町区・穂高町区)	0,000円
住)に限る	0,000円

平成29年12月10日

神社だより

新春祈願・交通安全祈願大祭の御案内

新しき年を迎える感謝と祈りをこめて…

今年は全国各地で天候の不順や台風、豪雨により災害が発生し、農作物の不作被害や道路・生活施設などが被災をした地域があり、国内の政治状況や日本を取り巻く世界の情勢も日々変化をしており安全と安心を強く感じた年でありました。また、情報の伝達はマスコミ報道やインターネットで瞬時になされますが、生活に欠く事なき品物は依然として車の移動によつて頻繁に行われるようになり、その恩恵は多大あります。

当社では常に世の中の豊かさに感謝申し上げ、皆様方の心安らかに安全な暮らしを続くように祈り続けております。

「一年の計は元旦にあり」神氣改まる年明けとともに使用されているお車のお祓いによる一年の交通安全と靈験あらたかな御加護のもと、穗高大神の御光を授かり諸祈願の成就をお祈りにお越し頂きますように謹んで新春祈願大祭の御案内を申し上げます。

一、期間 一月一日～八日(受付九時～十六時)

一、内容 交通安全、家内安全、事業繁栄、商売繁盛、厄除、八方除、試験合格、学業成就、病気平癒、身体健全、開運招福、心願成就、安産、お宮まいり、初誕生祝い、災難除、職場安全、子宝、良縁祈願、夫婦円満、歩行安心、お礼参り、人形供養、もののけの祓、他願い事。

一、祈禱料	
普通祈祷	五、〇〇〇円
特別祈祷	一〇、〇〇〇円
交通安全祈禱	(三台目から三、〇〇〇円)

一、祈禱料	
普通祈祷	一台につき 五、〇〇〇円
特別祈祷	(二台目から三、〇〇〇円)

厄除・八方除の特別祈祷祭は
1月 6、7、8、13、14、15日に斎行致します。

男女とも	
歳	89歳
歳	81歳
歳	78歳
歳	71歳
年齢(祝歳の翌年)	生まれ年
昭和3年生	昭和23年生
昭和5年生	昭和16年生
昭和13年生	昭和23年生
昭和5年生	昭和16年生
昭和13年生	昭和23年生
昭和3年生	昭和23年生

高齢の厄年(数え年)
産まれた年の干支がもとの干支に戻ることを長寿の祝とした60歳の翌年が通常の厄年の最後であることから、現代では長寿祝を迎えた年(古希70歳・喜寿77歳・龜寿80歳・米寿88歳・卒寿90歳)の翌年が高齢の厄年となります。

女性			
男女共通十三参り	61歳	37歳	大厄33歳
	昭和34年生	昭和58年生	昭和62年生
	昭和33年生	昭和57年生	昭和61年生
	昭和32年生	昭和56年生	昭和60年生
	平成18年生		
前厄			
本厄			
後厄			

[厄年一覧表 数え年】

古来より厄年は人生において心身の節目や責務の重い時期で、事故・病気・災難など障害の起きやすい年廻りとされ、十三参りは干支が一巡することから子供から成人となる節目とされています。

厄年・やぐどしと十三参り

特別祈禱祭のご案内

いぬ年

平成三十年 一番祈祷のご案内

『ひとりひとりが受けられる成就の鈴祓い』

年明け午前0時の時報とともに、初春のよろこいをお受けになり、大神様のご加護のもと平穏無事で明るく充実した生活をお送り下さい。

びを神様にお告げし、天下泰平をお祈りする元旦祭にひき続いて、新年の一番祈祷を斎行致します。二年参り・初詣には様々な願いを胸に祈られる事と存じます。

そんな多くの願いを必ず叶えていただけるよう、金幣の恵をさすけます。新年の巫女舞を加えた一番初めに度しか行われない大変貴重な御祈祷です。御祈願内容のすべての願いを込めて御祈祷致します。

一、祈禱料

一〇、〇〇〇円

お申し込みの方は、電話・ファックス・メールにてご予約下さい。

当日申し込みの方は、31日午後11時より受付致します。ご予約済の方は午後11時45分までに拝殿授与所までお越しください。尚、ご参列不可能な場合は御神札等郵送致します。

九星年盤
平成30年
八方ふさがりの方
(九紫火星・男女)



■男・女八方塞りの年まわり表	
	数え年
九紫火星	生まれ年
平成21年	平成21年
平成12年	平成12年
平成3年	平成3年
昭和57年	昭和57年
昭和48年	昭和48年
昭和39年	昭和39年
昭和30年	昭和30年
昭和21年	昭和21年
昭和12年	昭和12年
昭和1年	昭和1年
昭和1年	昭和1年

●お伊勢さまと神宮大麻

伊勢の神宮は、全国に数ある神社の中でも特別な存在のお宮で、皇室の御祖神である天照大御神（あまてらすおおみかみ）をお祀りしています。天照大御神は、太陽の光のように私たちの生命を守り、育んでくださる神さまです。

お伊勢さまのお神札を「神宮大麻」と言います。心豊かな生活は、神さまとの日々の会話から始まります。日本人の清く明るい心は、毎年あらためる神宮大麻と氏神さまのお神札から育まれるのでです。毎年必ず新しいお神札を受け、清らかな1年を過ごすことを心がけましょう。

新年を迎えるにあたって

1年の幸せと実りをもたらしてくれる歳神さまをお迎えするためには、まず家の内外を掃除する「煤払い」を行い、門松や注連飾り等の正月飾りを準備します。神棚も同様に綺麗にし、神社から受けた新しいお神札を納めます。古いお神札は一年間無事に過ごせた感謝を込めて氏神神社に納めてお焚き上げしていただきましょう。

家庭の おまつり

思いやりの心を育む神棚

日本人は古来、家に神棚をまつり、神さまに感謝と祈りを捧げてきました。神棚の前で、たとえば親は毎日の無事を感謝し、子ども達やかな成長を祈ります。やがて子どもが成人すると、年老いた親の健康を祈るようになります。また、家族に病人がいればまず快復を祈り、治れば感謝を捧げるでしょう。このように神さまに感謝と祈りを捧げることで、自分の心が生まれます。そして、その心こそあたたかい家庭をつくり、神さまのご加護をいただく源となるのです。さあ、皆さんも、お家に神棚をまつってみませんか。

■神棚を設置する

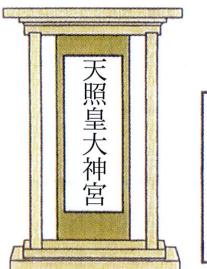
- ・設置場所を決める
- 居間や客間など家族の親しめる
- 明るく綺麗な部屋の天井近くに南
- 向きまたは東向きに設置するのが一般的です。

お神札の順位

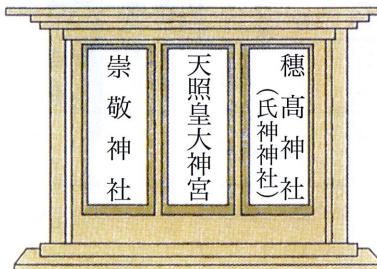
三社づくりの宮形は、中央に神宮大麻（天照皇大神宮）、向かって右に氏神様、向かって左に崇敬する神社や旅先などで受けたお神札を納めます。

一社づくりの宮形は、手前から順に、お神札を重ねて納めます。

重ねてまつる場合



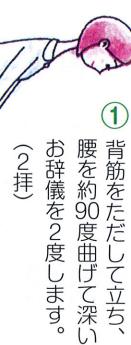
横に並べてまつる場合



神社・神棚お参りの仕方

神社でも、神棚でも、神さまにお参りする際は、「一拝一拍手一拝」の作法で行います。

拝礼の作法（2拝2拍手1拝）



(1)
先を揃えます。



(2)
2拍手



(3)
もう一度、背筋を伸ば

し引いてから二度手を

叩き、その後指

を離れます。

お辞儀を2度します。

ぜひ拝の角度だけでも意識してお参りしてみてください。その気持ちをきっと神さまに伝わることでしょう。

第32回
「秘めたる穂高の
工芸作家二十人展」のお知らせ

安曇野穂高が世界に誇る漆芸家、故高橋節郎先生を生んだ穂高に在住する工芸作家の銘品を展示し、大変好評を得ております。この展覧会には是非お越しください。

日程
1月1日～3日

午前9時～午後4時（無料）

場所 穂高神社 参集殿

三九郎 一月十四日

午後1時頃より餅つき、餅つき終了後点火。お餅は、おしるこ・お雑煮にして振るまいです。

節分豆まき

平成30年 年男・福女募集

来る平成30年2月3日午後4時に行われる節分祭の豆まきに、ご奉仕いたただける方を募集いたします。ご希望の方は、神社までお知らせ下さい。

○参加料 5,000円
神楽殿より福豆（景品付き）福錢をまきます。皆様の御参拝をお待ちしております。

○師走の大祓式（じわすのおおはらえしき）

新たな年を迎えるにあたり、日常生活の中で知らず知らずの内に犯した過ちや、身にふりかかった穢れを祓い清め、心身ともに清浄となる行事です。

氏子の皆様には一家に一体の人形を配布致しますので氏名、生年月日をご記入の上、お志を添えて当日までに氏子総代もしくは社務所へお納め下さい。

期日 12月31日 午後3時発行

参加自由（予約不要）

一日参り おついたち参りのご案内

毎月月初めの一日に穂高神社拝殿内に集まって、身が引締まる朝に神主さんと大祓詞（おはらえのことば）を奉唱し、今までの罪穢れを祓い清め、大神様のご加護をいただき、すがすがしい気持ちで一ヶ月をお過ごしされるようご参列下さい。

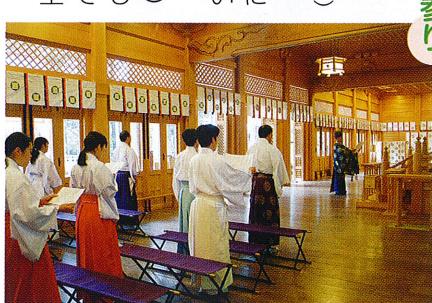
おついたち参り

・毎月1日
午前8時15分
より（1月は除く）

※8時半終了
※10分前に拝殿に

○参列自由
(予約不要、無料)

し
ます。
ます。



初詣の後に温かいお蕎麦はいかがですか

二年詣り、1月1日・2日・3日に南神苑参集殿前にてお蕎麦・おやき・おでん・あま酒等販売致します。右下のチケットをお持ちいただくと天ぷら蕎麦を… 500円にて提供させて頂きます!! ぜひお立ち寄りください。

○○忘年会・新年会予約承ります○○

まずは、お電話を!! お待ちしております

参集殿 和美庭 ☎0263-82-0118

天ぷらそば
通常600円を
¥500
お一人様1杯限り
12/31.1/1.2.3有効